

個性が輝く“ひと・まち・くらし”づくり



中央ろうきん助成プログラム



2018  
選考結果

中央ろうきん社会貢献基金

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-5 (中央労働金庫 総合企画部内)

フリーダイヤル: 0120-86-6956 (平日9:00~18:00)



この冊子は古紙配合率80%の再生紙  
および大豆油インキを使用しています。

## ごあいさつ

〈ろうきん〉は、働く仲間を応援する非営利・協同組織の福祉金融機関。「働く人の生活を守り向上させる」という使命のもと、労働組合・生協・市民活動団体などの非営利組織と連携した助け合いの金融機能によって、働く人が安心して暮らすことができる地域社会の実現に取り組んでいます。

いま、働く人が暮らす地域は、子育てや介護、環境、さまざまな障がいや困難、格差など、たくさんの課題を抱えています。

「ひと」がそれぞれの地域で喜びと誇りを持って働き、活動し、共にいきる一。私たちは、そうした人間味ゆたかな「共生社会」の具体化をめざし、2002年度に「中央ろうきん助成プログラム 個性が輝く“ひと・まち・くらし”づくり」をスタートしました。

このプログラムでは、関東エリア1都7県を対象に、働く人が抱える地域社会の課題解決に向け、未来の財産となる「ひと」を育て、魅力的で住みよい「まち」をつくり、多様な生きかたを認め合う「くらし」を実現する活動を応援します。特に、財政規模の比較的小さな団体を対象とし、市民活動の新しい芽をじっくり支えるプログラムとなっています。また、このプログラムを通して〈中央ろうきん〉の会員と、助成対象団体との協働が生まれることも期待しています。

今年4月、2018年の選考作業を無事終了することができました。〈中央ろうきん〉をご利用いただいている皆さまへの感謝の気持ちと、一人でも多くの方に「中央ろうきん助成プログラム」を知っていただきたいという思いから、本冊子「2018年選考結果」を作成いたしました。心をこめて、皆さまにご報告させていただきます。

### 中央ろうきん社会貢献基金

\*このプログラムは、特定非営利活動法人市民社会創造ファンドの協力のもと、企画・運営を行っています。

### 中央ろうきん社会貢献基金

福祉・環境および文化にかかわる助成、支援活動を通じて、人々が共生できる社会の実現に資することを目的に設立(2002年4月1日)。働く人の団体、広く市民の参加による団体に対する助成・支援活動とそのために必要な事業を実施しています。

### 特定非営利活動法人市民社会創造ファンド

新しい市民社会の実現に寄与することを理念とし、NPOの資金源を豊かにし、民間非営利セクターの自立した発展と活発化を図ることを目的に、日本NPOセンターの実績の一部を継承・発展するかたちで設立(2002年4月1日)。個人・企業・団体等からの多様な寄附や助成の受け皿となる専門的なコンサルテーション機能を備えた資金仲介組織です。

東京都中央区日本橋堀留町1-4-3 日本橋MIビル1階  
TEL:03-5623-5055 / <http://www.civilfund.org>

## 目次

ごあいさつ\_p.1

選考委員長による選後評\_p.2

プログラムの特長\_p.3

2018年スケジュール\_p.5

助成対象団体一覧\_p.6

助成対象団体の概要\_p.8

選考体制\_p.13

予備審査担当者 所感\_p.14

本審査選考委員 所感\_p.18



## 選考委員長による選後評

# 2018年助成の選考について



選考委員長 黒河 悟 (労働者福祉東部ブロック協議会 会長)

## 周りにある宝を大切に、もっと繋がろう人と地域と

今年はスタート助成1年目の募集は行われず、スタート助成2年目及び3年目とステップアップ助成の選考となりました。予備審査を経た団体について、本審査では、スタート助成2年目は書類選考、3年目は書類選考とポスターセッション、ステップアップ助成は書類選考とプレゼンテーションによって、じっくりと2日間かけて選考を行いました。

まずスタート助成2年目の団体ですが、中央ろうきんの助成を昨年初めて受けたという責任感を背にして苦勞された跡が、書類を審査していてもそれぞれに感じられました。当初の計画通り順調に進められたところ、直面した課題を克服しながら進んだところ、更には活動の前提にしていた条件が崩れてしまい悪戦苦闘を余儀なくされたところ、いろいろでした。でも、それぞれの経験が今後の活動の糧になるのは間違いありません。

スタート助成3年目の団体は、やはり活動の積み重ねが蓄積されていると感じさせるものでした。活動をしている地域に根付いてきていることはもちろんのこと、地域に無くてはならない存在、必要な存在になりつつあります。その意味では審査も活動の良し悪しというよりは、中央ろうきんの助成が今後の活動を継続して進める上で必要かどうか論点のひとつでした。また、助成3年目の活動は次のステップアップ助成に応募していくかどうかを判断するものでもあります。その意味では、3年目の活動が是非ともステップアップ助成への応募を視野に入れた活動として展開されることを期待したいと思います。

次にステップアップ助成についてです。応募団体は、言うまでもなく2年ないし3年間のスタート助成を受け、活動を蓄積してきた団体であり、それぞれが素晴らしい活動を進めています。また、これまでの活動報告やパートナーミーティング(贈呈式)・フォローアップミーティング(中間報告会)などにより、選考委員も応募団体のこれまでの活動は知っていましたが、特に今回のプレゼンテーションで、より団体や活動への理解が深

まり選考委員会での議論も大変活発なものとなりました。応募団体も各都県に散らばっていますし、活動のテーマも多彩です。選考基準の「これまでの活動の実施や成果、活動内容の発展や展開」は言うまでもなくそれぞれ高く評価できますが、その上に立った飛躍、まさにステップアップの名に相応しい課題設定や応募計画か、そして助成終了後の展開への繋がりなどをどう描いているか等を議論し、採択を決めました。採択された団体には、今年だけではなく先を見据えての活動を是非お願いしたいと思いますし、不採択の団体の今後の健闘も期待したいと思います。

さて、選考全体を通じて感じたことに触れたいと思います。一つは応募書類についてです。選考委員は選考にあたって応募書類を読み込みますが、必要事項が漏れていたり、予算などの数字が間違ったりしているところが見受けられました。また、応募団体が何をしたいのか、どうしようとしているのかが明確に伝わらないところもありました。助成を受ける以上、相手の理解を深め、共感と信頼を得ることは応募書類の作成から始まります。難しく書くことではなくシンプルで構いません。そこから団体自らの信頼を作り上げてください。二つめは、担い手の成長です。ひとりの力は微々たるものでも、手を取り合えば大きな力になります。組織の成長は人の成長です。選考委員会でも人の輪の拡がりや組織の成長を見させていただきました。代表者や事務局がひとりで請け負うのではなく、みんなの知恵や力を借りることが大切です。三つめは、地域の他団体との繋がりをもっと自分たちから積極的に求めてもらいたいと感じました。今年はNPO法が制定されて20年になります。地域には、皆さんの活動に先駆けた活動や市民活動を支援する組織が存在しています。他組織の活動は財産です。ぜひ一度外に目を向けてみましょう。

今回、助成プログラムに応募された団体がそれぞれの地域で生き生きと活動される姿を思い浮かべながら選後評とします。

## プログラムの特長

「中央ろうきん助成プログラム 個性が輝く“ひと・まち・暮らし”づくり」は、市民活動の促進をめざして取り組む(中央ろうきん)の社会貢献活動です。

● **本プログラムの対象分野** 下記の3分野を対象としています(複数の分野にわたって取り組む活動も含まれます)。

### ひとづくり

未来をにう子どもや若者たちが、個性豊かに成長し、自立した個人として地域で行う活動など

### まちづくり

生活の場としての居住地や商店街などを魅力的な空間とし、自然や歴史を生かした住み良い地域環境をつくる活動など

### 暮らしづくり

地域に生きる人が、さまざまな障がいや困難を乗り越えて地域社会に積極的に係わり、安心して自立した生活を実現するための活動など

● **重視する活動** 働く人が抱える地域社会の課題を解決する活動で、以下のものを重視します。

1 働く人が、自らの経験を活かして参加する活動

2 自らの地域をよりよくするために、さまざまな人が自発的に参加する活動

3 地域のさまざまな団体が連携し、取り組む活動

## ステップを踏んでチャレンジする、継続助成制度

スタート助成1年目の助成が決定すると、活動の発展に伴って2年目、3年目、更にステップアップ助成へと継続的に応募し、最長4年間の助成に挑戦することができます。

継続して助成を受けるには、年ごとに応募し、選考を受ける必要がありますが、応募用紙を作成することで、各団体の活動の目的・内容・方向性などを改めて振り返っていただく機会の創出につなげています。

※現在、スタート助成1年目の募集は行っていません。

### ● シンボルマークのご紹介

#### スタート助成

1年目  
【芽が出た種子】



芽が出たばかりの『種子』は、スタート助成1年目の団体を表しています。“これから始まる活動”や“始まったばかりの活動”を応援していることを表現しています。

2年目  
【双葉】



『双葉』は、スタート助成2年目の団体、さらに成長した『若葉』は、スタート助成3年目の団体を表しています。活動が定着するまで継続して応援し、徐々に活動が育まれていく様子をイメージしています。

3年目  
【若葉】



#### ステップアップ助成

【大きな花】



立派に咲く『大きな花』は、ステップアップ助成の団体を表しています。ステップアップ助成は、スタート助成で3年または2年にわたって活動を行った団体が対象で、さらにその活動を展開・定着させていくための資金。すでにある団体の“力”と、ろうきんの助成金という“肥料”とが合わさり、大きな“花”が咲くことを願ってデザインしています。

## “つながり”を大切にする助成制度をめざして

年ごとに実施されるこのプログラムでの出会いは、一期一会。〈中央ろうきん〉と助成団体との出会いはもちろん、助成団体同士の出会い、選考や運営に協力いただく選考委員・NPO支援組織の方々との出会いがあります。このプログラムで出会った方々との“つながり”を大切に、分野や地域を越えた新たなネットワークやパートナーシップを築いていただくため、年に数回の交流の場を設けています。

### ● パートナーミーティング（贈呈式）

助成決定後に、記念盾贈呈セレモニーと交流会の2部構成で開催いたします。助成が決まったすべての団体にご出席いただくほか、選考委員や1都7県の地域のNPO支援組織の方、〈中央ろうきん〉職員もお祝いに駆けつけます。「パートナーミーティング」の名のとおり、これから始まるお付き合いの挨拶も兼ねて、相互の理解と親睦を深める交流の場となっています。

2017年は110名が一堂に会し、地域別・分野別のグループ分けを仕掛けとして、参加者同士のマッチングを企画。参加者からは、「今後の活動に向けてヒントを得ることができた」「協力して活動したい団体と出会えた」などの声が寄せられ、活発な情報交換と交流の機会となりました。

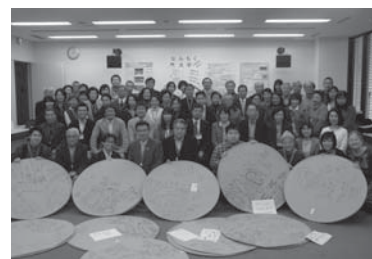


### ● フォローアップミーティング（中間報告会）

助成期間を一定期間経過したのち、最長4年の助成制度を上手に活用し、それを糧にそれぞれの団体が自立した事業運営を進めていくためのディスカッションを実施しています。活動の成果や課題を振り返ることで自分たちの活動を見つめ直す機会となるほか、他の団体の活動内容や助成金の活用方法を知ること、今後の活動のアイデアを共有する機会となっています。

2017年はスタート助成の団体から78名が参加。前半は、スタート助成1年目の団体によるポスターセッション。助成開始から半年間の活動をまとめたポスターを参加者が自由に見て回り、ポスターの感想や応援メッセージを交換しました。また、ステップアップ助成まで4年間継続して助成を受けた先輩団体から、どのように助成金を活用したのか、継続助成によって得られたものは何かなど、参加者に今後の活動のヒントとなるような事例報告をしていただきました。後半は、スタート助成2年目の団体も交えて「人材育成」や「活動資金づくり」など、参加者に挙げていただいた話し合いたいテーマごとのグループに分かれ、活動の「あり方」や「やり方」について意見交換を行いました。

また、ステップアップ助成への応募を控えたスタート助成3年目の団体を対象として、団体の活動をどのように発展・展開させるか等を考えるワークショップを、元選考委員を講師にむかえて実施しました。



## <2018年スケジュール>

2018年

1月4日(木)～1月12日(金) 応募受付 (応募総数 44件)

1月22日(月)～2月6日(火) 予備審査 (本審査対象 32件を選出)

3月14日(水)～3月15日(木) 選考委員会 (助成候補 26件を選出)

4月13日(金) 助成対象団体決定

4月27日(金) 選考結果公表

5月25日(金) パートナーミーティング(贈呈式)

6月1日(金) 助成期間開始

12月14日(金) フォローアップミーティング(中間報告会)

12月19日(水) 中間報告書提出

2019年

1月上旬 継続助成応募受付

5月31日(金) 助成期間終了

6月28日(金) 完了報告書提出

### <選考方法>

[スタート助成 2年目]  
書類選考

[スタート助成 3年目]  
書類選考+ポスターセッション



[ステップアップ助成]  
書類選考+プレゼンテーション





# 2018年助成対象団体一覧

今年は、応募件数44件の中から26件、助成総額1,190万円（内訳：スタート助成 20件 助成総額597万円、ステップアップ助成 6件 助成総額593万円）が、選考委員会による審査の結果、助成対象として選ばれました。

※2018年4月現在。活動名は一部変更となる場合がございます。

## スタート助成・2年目：14件 活動開始資金／1団体上限30万円

都県名	活動名	団体名	代表者名	活動対象地域	助成額
1 茨城	笠間ふれあい体験旅行推進事業	特定非営利活動法人 笠間の魅力発信隊	大坪 桂	笠間市	30万円
2 茨城	里山間伐と子供広場の遊具充実	息栖の森自然共生を 図る会	後藤 和夫	那珂市中台	30万円
3 茨城	「消防署を飛び出して」出張！ 救命教室	特定非営利活動法人 子どものための救命教室	正根寺 雅子	つくば市を 中心に県内全域	30万円
4 茨城	茨城／鹿行地域における産後ケアプログラムの普及～産後ママ応援プロジェクト！すべての 母が産後ケアを受けられる地域を目指して～	特定非営利活動法人 ファーストペンギンネットワーク	宇野 則子	鹿嶋市	30万円
5 茨城	とことんママに寄り添う子育て支援 ～安心して子育てできる社会を目指して～	特定非営利活動法人 たまり場ぼぼ	早川 愛	ひたちなか市	30万円
6 群馬	障がい児の車いすテニス及び車いす スポーツによる余暇活動支援	群馬車いすジュニアテニス チーム 上洲W-inds	福田 芳和	高崎市、前橋 市、伊勢崎市	30万円
7 群馬	高齢化日本一の村で学ぶ本当の生きる力！ なんもく大学 ツリーハウスプロジェクト	なんもく大学	古川 拓	甘楽郡南牧村	30万円
8 埼玉	無料塾の周知を図り、子どもの居場所・ 学びの場づくりの輪を広げる活動	特定非営利活動法人 無料塾ひこぎ	角田 眞喜子	さいたま市桜区を 中心に県下全域	30万円
9 千葉	コミュニティスペース 「Cocokara-cafe」の運営	コミュニティプロジェクト Enn'	久保山 一美	山武市	30万円
10 千葉	子育てしながら活動イベント交流 にぎやか地域	にこりこワーカーズ	陶守 奈津子	千葉市美浜区海浜 ニュータウン内外	30万円
11 東京	認知症高齢者の居場所づくり、介護者支 援、地域への啓発を目指すカフェの運営	松が丘見守り隊	坂本 恵司	東久留米市 浅間町	30万円
12 東京	LGBT当事者の子どもや若者、家族の交流・ 支援・学びの場「TRUE COLORSカフェ」	TRUE COLORS	金子 恵理	都内全域	30万円
13 神奈川	ハンドメイド(ものづくり)を通して、サバイ バーが安心して過ごせる「居場所」づくり	ハナリマパイレーツ	赤松 未来	横浜市	30万円
14 神奈川	動物園におけるESDプログラム開発と その普及を支えるネットワークづくり	ShoeZ	並木 美砂子	横浜市を中心 とした全国	28万円
計					418万円

## スタート助成・3年目：6件 活動開始資金／1団体上限30万円

都県名	活動名	団体名	代表者名	活動対象地域	助成額
1 栃木	滞日ネパール人コミュニティリーダー のスキルアッププロジェクト	滞日ネパール人のための 情報提供ネットワーク	ダンゴール・ ガンガ・デビ・ 栗原	東京都、神奈川県、 埼玉県、群馬県	30万円
2 群馬	アリスの広場(不登校やひきこもり などの若者の居場所)	特定非営利活動法人 ぐんま若者応援ネット	佐藤 真人	県内全域	30万円
3 埼玉	定時制生徒一人ひとりにチューターを！ ～早めの目標設定と進捗サポートで退学 防止と卒業後の進路の選択肢を広げる～	monkey_spitz	三田寺 安子	さいたま市を中心 とした県内全域	29万円
4 東京	地域での食のセーフティネット事業	特定非営利活動法人 フードバンク狛江	田中 妙子	狛江市と 周辺地域	30万円
5 東京	なにしょっかクラブ	さきちゃんち運営委員会	八木 晶子	文京区	30万円
6 神奈川	「もったいない！」をみんなの笑顔に ～小さな村のジャムづくり～	特定非営利活動法人 結の樹よってけし	岩澤 克美	愛甲郡清川村	30万円
計					179万円

## ステップアップ助成：6件 活動展開資金／1団体上限100万円

都県名	活動名	団体名	代表者名	活動対象地域	助成額
1 茨城	3世代を繋ぐ地域みんなの子育てネットワーク の構築(継続的活動のためのシステムづくり)	一般社団法人 子育てネットワークままもり	宮下 嘉代子	守谷市	100万円
2 栃木	まちに水力のあかりを灯すプロジェ クト	鹿沼自然エネルギー推進会	鈴木 貢	鹿沼市	100万円
3 群馬	日本語を母語としない人のための 受診・健診・防災 安心サポート	特定非営利活動法人 群馬の医 療と言語・文化を考える会	山口 和美	群馬県と 隣接地域	100万円
4 埼玉	更年期を迎える女性の健康を支える輪 を作る「ちえぶらシアター」プロジェクト	特定非営利活動法人 ちえぶら	永田 京子	全国	100万円
5 千葉	認知症高齢者や知的・精神障害者にも当 たり前の幸福を！(親も親族も市民も互いに 後見人となり一緒に扶けあえる社会の実現)	特定非営利活動法人 市民後見太陽	神 時夫	富里市を中心 に近隣市町村	93万円
6 山梨	地域資源の有効活用、人々の支え合 いで住み良い街づくり	特定非営利活動法人 みんなの街	室田 泰文	北杜市	100万円
計					593万円

### ●都県別の応募数・本審査対象数・選考結果

都県名	スタート助成・2年目			スタート助成・3年目			ステップアップ助成			採択数 合計
	応募	本審	結果	応募	本審	結果	応募	本審	結果	
茨城	5	5	5	1	1	0	1	1	1	6
栃木	0	0	0	1	1	1	1	1	1	2
群馬	2	2	2	1	1	1	1	1	1	4
埼玉	2	1	1	2	1	1	1	1	1	3
千葉	5	4	2	1	0	0	2	1	1	3
東京	5	2	2	4	3	2	3	2	0	4
神奈川	3	2	2	1	1	1	0	0	0	3
山梨	0	0	0	1	0	0	1	1	1	1
合計	22	16	14	12	8	6	10	8	6	26

# 助成対象団体の概要 (スタート助成・3年目) ステップアップ助成



## 滞日ネパール人コミュニティリーダーのスキルアッププロジェクト

栃木県

### 滞日ネパール人のための情報提供ネットワーク

日本で長く暮らしているネパール人とネパール人支援に関わる日本人が、ともに教育や保健医療に関する情報の提供、及び通訳や研修講師の紹介に取り組む団体(2015年設立)。

2カ年のスタート助成を受け、「外国人をサポートするための生活マニュアル」の抜粋版をネパール語で作成し、テーマ別にワークショップ等を開催したところ、ネパール人だけではなく、自治体や外国人支援のNPOにも団体の認知度が高まった。その結果、通訳や研修を担う機会も多くなり、スタッフも5名から9名に増やすことが出来た。

3年目は、高まる要望に応えるためにリーダーを育成し、また外国人支援団体との交流を通じて組織基盤の強化に取り組む。さらに他の外国籍住民も含めたニーズを把握し、協力団体とともに地域社会に広く届けていく。



## 地域での食のセーフティネット事業

東京都

### 特定非営利活動法人フードバンク狛江

狛江市において、まだ十分に食べられる食品の寄贈を受け、地域に密着しながら、生活困窮者や福祉施設・団体に届けることで「食の分かち合い」の発信に取り組む団体(2014年設立)。

2カ年のスタート助成を受け、市や社会福祉協議会と共催の講演会や各種イベントの参加による周知を行ったことで活動の認知度が向上。また、常設の食品寄贈受付場所を2カ所増設することで年間の食品出荷量を増やすことができた。

3年目は、相談窓口に来ることのできない世帯へのアプローチを試みる。福祉団体等とともにシンポジウムを開催し、潜在化している生活困窮世帯の掘り起こしと支援に繋げていく。また、必要な世帯に十分な食品を提供できるよう、イベント等でフードドライブへの参加を呼びかけていく。



## アリスの広場 (不登校やひきこもりなどの若者の居場所)

群馬県

### 特定非営利活動法人ぐんま若者応援ネット

不登校や引きこもり、ニートの若者が、家から一歩外に踏み出す機会となるフリースペース「アリスの広場」を開設し、交流と相談事業を通じて、当事者とその親の支援に取り組む団体(2014年設立)。

2カ年のスタート助成を受け、「アリスの広場」に訪れた若者を、ボランティアスタッフ・仲間との交流や様々な体験を通じて自信を取り戻させ、復学や進学、一人暮らしへとつなげることが出来た。また教職員研修会の講師依頼も増え、団体の認知度も高まりつつある。

3年目は、引き続き「アリスの広場」の運営をしながら、就労体験の受け入れ先となる企業を開拓する。また団体独自でも就労体験の場となる「アリスの食堂」開設に向けた準備に着手し、若者の状況に合わせた支援体制を構築していく。



## なにしょっかクラブ

東京都

### さきちゃんち運営委員会

子どもが多世代と交流し、地域の大人に見守られながら育つ場「さきちゃんち」の運営管理を行い、子育てサロン、子ども図書館、子どもによる遊び場づくりなどに取り組む団体(2015年設立)。

2カ年のスタート助成を受け、子どもの「やりたい」から生まれるプロジェクトと一緒に考えて実現する「なにしょっかクラブ」を実施した。子どもとの関係づくりを丁寧に行うことで、子どもが自ら活動や企画を生み出せるようになり、参加人数も確実に増えてきた。

3年目は、「子どもたち自身での発信」に重点をおき、プログラミングやHP等での発信スキルが身に付くようサポートする。そして自ら実現したいことを言葉にし、他者に伝える経験を通して、子どもたちの可能性を広げていく。



## 定時制生徒一人ひとりにチューターを！～早めの目標設定と進捗サポートで退学防止と卒業後の進路の選択肢を広げる～

埼玉県

### monkey\_spitz

「親に振り回される子どもを救う」、「親からの自立をサポートする」ことを目標に、親のことで悩んでいる学生に対して、就職及び進学の支援等に取り組む団体(2014年設立)。

2カ年のスタート助成を受け、定時制に通う生徒が卒業後の目標を定め、そして自分に適した進路を選択できるよう、国が推進する「高大連携」案として大学生が彼らをサポートするチューター制度を埼玉県に提起し、住み込み可の就職先の開拓やその仕組み作りに取り組んだ。各関係機関に地道に働きかけながら理解の輪を拡げ、協力者を増やしつつある。

3年目は、引き続きチューター制度構築に向けてのリリースと各関係機関との調整を行いながら、社会人チューターのブレ運用を通して実績を重ね、将来的には大学生を中心とした支援体制の礎を築く。



## 「もったいない！」をみんなの笑顔に～小さな村のジャムづくり～

神奈川県

### 特定非営利活動法人結の樹よってけし

人口減少や高齢化が進む神奈川県内で唯一の村・清川村において、地域住民が安心して生活できるコミュニティづくりと生きがいづくりを目的に食事提供・弁当宅配、交流促進事業などを行う団体(2014年設立)。

2カ年のスタート助成を受け、地域住民と協力して管理放棄・未収穫の果樹園等から柚子や梅、ブルーベリーなどを収穫しジャム加工・販売を行ったところ、地場産品として完売するほどの人気となった。また、未利用果樹園の再活用が行われたことで所有者の樹木の管理意欲の増進に結び付いた。

3年目は、引き続き、ジャム加工商品の生産販売を行い、地域住民や清川村を熟知した有識者や企業、学生を巻き込みながら地域の活性化を目指す。





3世代を繋ぐ地域みんなの子育てネットワークの構築（継続的活動のためのシステムづくり） 茨城県

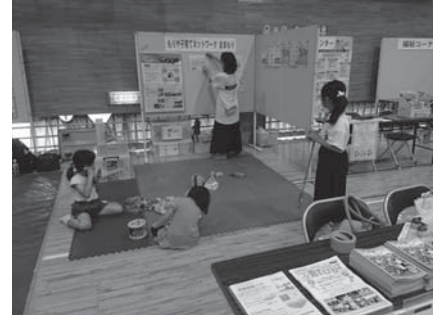
一般社団法人子育てネットワークままもり

つくばエクスプレスの開通に伴い、数多くの子育て世帯が転入している守谷市において、安心して子育てが出来る環境づくりを目指し、地域住民との交流促進を図るイベント企画・運営に企業や行政と連携しながら取り組む団体（2011年設立）。

3ヵ年の助成を受け、地縁のないママたちが子育てに関する不安を解消するための情報冊子を発行し、その過程で商工会やシニア世代とのつながりが生まれ、地域連携の基盤を築くことが出来た。さらに皆が集まることのできる活動拠点を市役所近くに借上げたことにより、活動の幅がより一層広がった。

ステップアップ助成では、蓄積してきた活動内容と地域との連携を活かしながら、今後の活動を自己財源で展開するための仕組みづくりを行う。具体的にはこれまで取り組んできた木育活動を通して団体が自立運営できるよう、茨城県の間伐材・県産材で木のおもちゃを製造するための機材を導入し、シニア世代やママ達が木のおもちゃを製品化し販売していく。あわせて木のおもちゃを通じて多世代交流を目指したワークショップや、子育て支援センター等で子どもたちが木に触れる機会も提供していく。

選考委員会では、スタート助成の3年間で多くの協力者や支援者を巻き込みながら、計画性と戦略性をもって着実に実績を積み重ねてきたことが評価された。今後は安定的に活動が継続できるよう組織基盤を整え、活動拠点が地域交流の場として機能することを期待し、応援したい。



日本語を母語としない人のための受診・健診・防災 安心サポート 群馬県

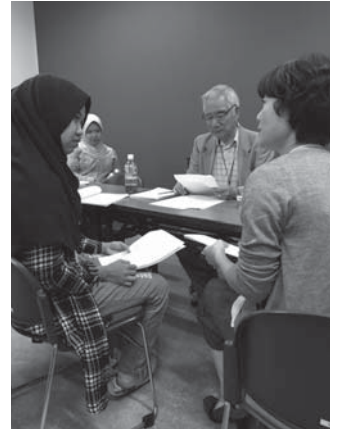
特定非営利活動法人群馬の医療と言語・文化を考える会

言語や文化の壁なく、皆が手をつなぎ、大切な命や健康を守ることができる社会の実現を目指し、日本語を母語としない人が、適切な医療サービスを受けられるよう、医療通訳の養成・派遣、普及活動に取り組む団体（2013年設立）

3ヵ年の助成を受け、県内すべての病院を対象にアンケートを実施し、外国人受入れ体制や意向を調査した。その結果をシンポジウムで報告し、在住外国人が抱える課題と支援の在り方における意見交換をきっかけに、地域の各関係機関との連携を構築することが出来た。さらに医療通訳者派遣事業を団体独自で開始したところ、その実績が群馬県で認められ、群馬県の派遣業務を受託するに至った。

ステップアップ助成では、大幅に増えた医療通訳者派遣業務と外国人からの相談依頼に対応するために外国人コーディネーターを2名増員する。また派遣業務以外の地域啓発活動、医療機関や行政との連携づくり、また活動継続のための資金獲得等の多くの業務を抱えている現コーディネーターの勤務時間を増やし、業務内容に見合った人件費を確保することで、事務局体制を強化する。

選考委員会では、団体内でしっかりとミッションが共有されており、また在住外国人に対する支援の必要性を各関係機関に働きかけながら、着実に派遣業務の実績を重ねていることが評価された。今後も多くの理解者と支援者を獲得しながら、将来的には制度化を目指して、活動が展開されることを期待し、応援したい。



まちに水力のあかりを灯すプロジェクト 栃木県

鹿沼自然エネルギー推進会

鹿沼の自然環境や生活を守りながら、自然エネルギーの普及・推進と地域の活性化を目的に、小水力発電機の製作と実証実験、市民向けセミナーに取り組む団体（2012年設立）

3ヵ年の助成を受け、自転車ハブダイナモ小水力発電機（ハブダイナモ＝自転車の車軸の回転により発電する装置）、太陽光発電機を組み合わせたハイブリット型、また発電能力の高い風力用の直流発電機を利用したH型小型水力発電機の製作を行い、農業水路などでの実証実験により改良を重ねてきた。また市民向け自然エネルギーセミナーを開催したことで団体の認知度が高まり、地元の中学校や自然保護団体、土地改良区等との協力関係も築くことが出来た。

ステップアップ助成では、H型小型水力発電機の改良を進めながら、具体的実用化に向けて、下沢引田土地改良区をモデル地域として「まちに水力の灯りをともすプロジェクト」を立ち上げ、市内各所に水力による街路灯設置に取り組む。またH型小型水力発電機の作り方と活用の手引きをまとめた小冊子を発行し、農業用水路等で小水力発電設置に関心のある人に向けて普及啓発を図る。

選考委員会では、発電機の製作だけでなく具体的実用化に向けて、地域や学校を巻き込みながら活動を展開していることが評価された。今後は資金獲得も含めた中長期的な目標をしっかりと団体内で話し合い、持続可能な活動を目指しながら積極的に地域に働きかけることを期待し、応援したい。



更年期を迎える女性の健康を支える輪を作る「ちえぶらシアター」プロジェクト 埼玉県

特定非営利活動法人ちえぶら

現代社会ではサポートが薄く、更年期を迎える女性に対して、自らが健康を選択できる社会を目指し、これから更年期を迎える世代への知識の普及と意識の改革を目的とする団体（2014年設立）。

3ヵ年の助成を受け、定期的な運動教室と、互いに悩みを共有できるイベント「ちえぶらCafé」を実施。多くの参加者に活動を周知することができた。また、更年期の女性をサポートする人材をeラーニングとスクーリングにより養成し、現在までに全国各地で26名の伝え手が誕生している。また、イベントに足を運べない人たちのために、ウェブサイトを整備。更年期に関する動画を作成し、必要な人たちに情報が届くようコンテンツの充実と発信の強化につとめた。これまでの活動を経て、参加者が比較的ヘルスリテラシーの高い層に留まることや、更年期の女性の健康については、周りにいる人たちの理解と協力も必要であることが分かってきた。

ステップアップ助成では、広く一般に更年期について周知をはかるために、新たなコンテンツとして「ちえぶらシアター」プロジェクトを展開。内容は、更年期によくある症状についての「おとな女子川柳」の募集や、更年期の相談内容と対策を分かりやすく動画でまとめた「ちえぶらチャンネル」の作成、ファミリーで楽しく鑑賞できる「劇団ちえぶら」を実施する。

選考委員会では、これまでの活動で着実に仲間を集め、次の展開が導き出されたことが評価された。今後、女性のみならず更年期を迎える男性へのサポートの充実や、更年期が個人任せのものとならず、広く一般化されることを期待し、応援したい。





認知症高齢者や知的・精神障害者にも当たり前の幸福を！  
(親も親族も市民も互いに後見人となり一緒に扶けあえる社会の実現)

千葉県

特定非営利活動法人市民後見太陽

高齢化が進む富里市において、増加する独居者や障害を抱えながら障害年金が受給できない等、行政サービスの谷間にいる人たちに対し成年後見人等の利用促進と人材育成に取り組む団体(2013年設立)。

3ヵ年の助成を受け、成年後見制度に関する毎月の勉強会と相談会を実施し、活動が広く周知されるようチラシの作成と配布を行った。1年目は相談者が少なく苦戦したが、地道な活動の結果、富里市からの成年後見制度普及推進事業の受託に結び付き、定例勉強会の参加者も年間250名を超えた。また、市民後見人の養成講座を実施し、これまで2名であった担い手が6名となった。



ステップアップ助成では、認知症のみならず障害を持つ人たちも適切なサービスを受けられていないという課題認識から、精神障害者の親の会「サルビアの会」と協働し、後見制度の勉強会を行う。申立、公正証書や遺言書等の作成までを行い、会のメンバーそれぞれに相応しい後見対応を探る。また啓発のためのセミナーや市民後見人の養成講座も引き続き開催し、市民の理解を拡げていく。

選考委員会では、社会的ニーズの高い事業に挑戦し、専門家や各関係機関との連携を構築しながら、スタート助成の3年間を地道に取り組み、実績を重ねてきたことが評価された。今後も、身近な後見制度を他の団体にも伝え広げていき、持続的な活動基盤が作られることを期待し、応援したい。

地域資源の有効活用、人々の支え合いで住み良い街づくり

山梨県

特定非営利活動法人みんなの街

少子高齢化に悩む田舎と、田舎暮らしを希望する都市生活者の双方が幸せに暮らせる環境を創り出すことを目的に、空き家や耕作放棄地などの有効活用、空き家データベースの作成、移住相談・支援に取り組む団体(2014年設立)。

3ヵ年の助成を受け、地域で利用されていない空き家を改修し、気軽に移住体験ができる「お試し滞在施設」の開設と運営、自然体験や田舎暮らし体験の提供、また、都会からの移住者がすぐに生活できるようシェアハウスの提供などを行った。



これまでにお試し滞在施設を2棟開設し、移住支援活動を通して13組が移住に結び付いた。地元での認知度も向上し、各種メディアに取り上げられたり、視察の依頼も来るようになった。一方、人手や資金、都心への広報力が不足していることから、活動の継続に向けて、さらに理解者や支援者を増やす必要性が見えてきた。

ステップアップ助成では、新たにお試し体験施設を2棟開設し、移住希望者には実際に空き家を改修して住環境を整えるDIY体験を提供する。移住相談では、地元住民へのつなぎや仕事の斡旋も行い、移住へのハードルを下げる。これらの活動を通して街の活性化につながるモデルケースとして広く発信し、支援者の獲得を目指す。

選考委員会では、3年間の助成で実際に多くの移住につなげ、地域に根付いた活動を展開していることが評価された。今後、移住希望者の自発的な活動につながるよう、組織体制を充実させるとともに、事業モデルが全国に波及されることを期待し、応援したい。

# 2018年選考体制

● 選考委員会

※敬称略 所属名は選考委員会開催時点(2018年3月)

- 選考委員長 黒河 悟 (労働者福祉東部ブロック協議会 会長)
- 選考委員 岩井 俊宗 (特定非営利活動法人とちぎユースサポーターズネットワーク 代表理事)
- 選考委員 上田 英司 (認定特定非営利活動法人日本NPOセンター 事務局次長)
- 選考委員 佐藤 蘭美 (法政大学 現代福祉学部 福祉コミュニティ学科 教授)
- 選考委員 岩村 真奈美 (中央労働金庫 総合企画部(CSR) 上席調査役(主幹))

● 予備審査・広報協力

(2018年3月時点)

予備審査は、各地域のNPO支援組織と中央労働金庫都県本部が実施いたしました。

- 認定特定非営利活動法人 茨城NPOセンター・コモンズ  
http://www.npocommons.org/  
茨城県水戸市梅香2-1-39 茨城県労働福祉会館2階  
TEL:029-300-4321 / E-mail:info@npocommons.org
- 認定特定非営利活動法人 宇都宮まちづくり市民工房  
http://www.utshiminkoubou.org/  
栃木県宇都宮市平松町561  
TEL:028-634-9901 / E-mail:utshiminkoubou@yahoo.co.jp
- 群馬NPO協議会  
http://gunma-npo-kyougikai.way-nifty.com/  
群馬県前橋市大手町1-1-1 県庁昭和庁舎1階 NPOボランティアサロンぐんま 内  
TEL:027-243-5118 / E-mail:gunma-npo-kyougikai@nifty.com
- 認定特定非営利活動法人 さいたまNPOセンター  
http://www.sa-npo.org/  
埼玉県さいたま市浦和区東仲町12-12 ツインハイツ102 /  
TEL:048-811-1666 / E-mail:office@sa-npo.org
- 認定特定非営利活動法人 ちば市民活動・市民事業サポートクラブ  
http://npoclub.com/  
千葉県千葉市美浜区真砂5丁目21-12  
TEL:043-303-1688 / E-mail:npo-club@par.odn.ne.jp
- 東京ボランティア・市民活動センター  
http://www.tvac.or.jp/  
東京都新宿区神楽河岸1-1 セントラルプラザ10階  
TEL:03-3235-1171 / E-mail:center@tvac.or.jp
- 認定特定非営利活動法人 藤沢市民活動推進機構  
http://f-npon.jp/  
神奈川県藤沢市藤沢577番地 寿ビル301号室  
TEL:0466-53-7366 / E-mail:f-npoc@shonanfujisawa.com
- 特定非営利活動法人 山梨県ボランティア協会  
http://www.yva.jp/  
山梨県甲府市丸の内2丁目14番13号 ダイタビル5F  
TEL:055-228-3300



# 予備審査 担当者所感

応募を受け付けたスタート助成34件全てに対し、都県ごとに予備審査を実施いたしました。予備審査に参加した各地域のNPO支援組織と中央労働金庫都県本部の、それぞれの担当者所感を掲載いたします。



## 茨城県

### 認定特定非営利活動法人 茨城NPOセンター・コモンズ

設立間もない団体からの応募が多く、組織の成長に本助成が貢献していることが伺えました。応募団体の中には、共益を志す自治会メンバーがベースとなりながら、別組織で公益的活動に一步踏み込んだものも見られるなど、多彩さを感じました。また、他地域での活動と経験をモデルに、同様の活動を別な団体、場所で行う活動など、経験を活用する活動も見られました。

ステップアップ助成に向けて、単なるこれまでの活動の延長や規模拡大ではなく、その経験や反省を踏まえた上で、新たな活動の要素も期待したいと思います。

### 中央ろうきん 茨城県本部

応募団体が、スタート助成2年目・3年目ということで、スタート助成1年目の活動から得られた成果や課題、それを受けた今後の活動計画等を中心に審査させていただきました。応募書類を拝見すると、各団体が“ひと・まち・くらし”づくり活動の発展・充実に向け努力している様子が伺われ、本助成がその一翼を担えることに喜びを感じています。助成対象となった団体には、ぜひ助成金を有効に活用いただき、活動をさらに発展いただくことを期待しています。

最後に、ご応募いただきました全ての団体の皆さまの、ますますのご活躍を心より祈念いたします。



## 群馬県

### 群馬NPO協議会

1年目の助成を活かし、2年目に発展が期待される応募書類が出ていました。助成金が効果的に活用されている様子が見えます。

ただ、そのような活動が即時情報発信されていないケースが多いことは残念です。最近はスマートフォン等の普及により、すぐにインターネットで検索される傾向にあります。検索された時、そこに情報があるような状況をつくっていくことも大切だと思います。なかなか活動に忙しい団体には大変なことだと思いますが、次の活動資源である協力者や寄付金に直結していくものだという意識付けで、情報発信に取り組んでいくことも必要ではないかと思いました。

### 中央ろうきん 群馬県本部

審査にあたり、人口減少や急速な高齢化、地域社会の脆弱化等の社会構造の変化という様々な課題を抱えるなかで、それぞれの団体が多様な角度・視野から活動をされていることを拝見しました。また、その継続と発展に向けた真摯な姿勢には、心打たれる活動も数多く見受けられました。

これらの活動が根付き、必要としている方の拠り所となることで、個々が支え合い、地域とともに「一人ひとりが自分らしく暮らし、共生の輪がうねりとなり、拡がる社会が実現されることを期待しております。



## 栃木県

### 認定特定非営利活動法人 宇都宮まちづくり市民工房

応募団体の立場になってみると、往々にして、こうした助成金の応募書類には「あれもこれも」書いてしまいがちです。重要なのは、書面上に散りばめた一つの活動が本当に必要とされているのかを検証し、ややもすると批判的に自己省察できるかどうかだと思います。また、あわせて予想できなかった状況の変化に適応していく力も必要です。

この助成が地域住民の気持ちや暮らしに寄り添い、社会情勢を見極めながら、地域社会だけではなく、自分たち自身をも変革できる団体になっていく、ささやかな一助になれば幸いです。

### 中央ろうきん 栃木県本部

今年もたくさんのご応募を頂きましたが、その応募書類を拝見すると、皆様の熱い思いが感じられるとともに、地域・社会が抱えている多種多様な課題に対するきめ細やかな支援活動は、大変意義があるものだと感じております。

助成対象となった皆様におかれましては、助成金を有効に活用していただき、同じ志をもつ多くの仲間と一緒に、更なる発展を遂げられることをご祈念申し上げます。



## 埼玉県

### 認定特定非営利活動法人 さいたまNPOセンター

今年のお申し込みについては、目の前の問題に「なんとかしたい」という利他的な情熱から出発した活動で「こんな団体があつてよかった。当事者にも喜んでいただけるだろう」と推測できる活動でした。しかし、そろそろ当初の「やるしかない」という思いだけでは突破できない問題も起こってくる頃です。その解決は一筋縄ではいかないと思いますが、やはり「ルーティンワークになっていないか」「当事者の必要性和本当にあつている活動なのか」など仲間や周囲の人の意見も取り入れた「活動の修正」を常に行いながらの活動になってほしいと思います。

### 中央ろうきん 埼玉県本部

今年も継続助成のみの審査となりましたが、ご応募いただいた団体の活動は、年々拡がりを見せ、着実に前進している姿が見て取れました。活動の中で、新たな課題が生まれることもあるようですが、その解決に向けて真摯に取り組んでいました。皆様が取り組む課題と解決の手法は、その一つひとつが生きた教材として大変意義のあるものだと感じます。

最後となりますが、皆様の活動が周りの多くの人を巻き込み、さらに発展していくことを期待しています。

# 予備審査

担当者所感



## 千葉県

### 認定特定非営利活動法人 ちば市民活動・市民事業サポートクラブ

スタート助成2年目の団体については、1年間の実績を参考にしながら審査にあたりました。外的要因等により当初想定していた通りの成果を上げることができなかった団体も見受けられましたが、諦めることなく再チャレンジすることも大切だと思います。

スタート3年目助成の団体については、活動を通してメンバーが拡充できたか、他の団体・組織との連携、協力ができたかどうか、また、助成金終了後も活動を継続できる内容になっているかをポイントとしました。

### 中央ろうきん 千葉県本部

予備審査にあたり、各団体がよりよい「ひとづくり」「まちづくり」「くらしづくり」に向け、取り組む姿が伺えました。

また、どの団体においても地域の課題を踏まえたうえで、地域の特性や人と人の繋がりを生かした活動、様々な年代の方を対象とした活動などが行われており、「活動をより多くの人へ広げたい」といった熱意を感じました。今後さらに連携した活動を行うことにより、地域の明るい未来へ繋がっていくことを期待しております。



## 神奈川県

### 認定特定非営利活動法人 藤沢市民活動推進機構

今年は前年度に助成を受けた団体の審査となりましたので、助成を受けたことによる効果や成果をどのようにステップアップしていくのかという視点で読み進めました。

1年ごとの応募ですが、最長4年という長いスパンを見据えて、計画をつくり、着実に進められた団体もありました。一方で新しい課題に気づき、新たな方策を考え出した団体もありました。それぞれ助成金という外部資金があつてのことと思います。

「個性が輝く」時代に入り、評価は年々難しくなってきましたが、活動地域ならではの特徴が際立っており、市民活動の必然性を感じられる予備審査となりました。

### 中央ろうきん 神奈川県本部

今年は、4団体に対して予備審査をさせていただきました。それぞれの活動内容からは高齢化社会など社会問題の解決を目的としたものが多く見られました。

応募内容についても、これまでの活動を踏まえて「活動の内容を充実させたい」「活動の幅を広げたい」と更なる活動の発展に向けた皆様の想いがつまった内容となっていました。

本プログラムを通じて、皆さまと一緒に「共生社会」の実現に向けた活動に取り組んで参りたいと思います。



## 東京都

### 東京ボランティア・市民活動センター

どの応募内容も、地域、社会にある多様なニーズに対する挑戦への熱が感じられ、そのなかには東京特有のニーズも見受けられました。また、先駆的であり、モデルケースとして他の地域に波及することで、更なる活動の意義が見いだされるであろう内容も散見されました。

もっと、拡がってほしい、そのような想いをもちながら、同時にNPO支援組織のスタッフとして、身が引き締まる思いで、1件1件、応募書類を拝見しました。

### 中央ろうきん 東京都本部

審査では、各団体の活動内容を興味深く拝見しました。改めて、当金庫の助成金が幅広い分野で役立っていることを知り、誇りに感じました。

今年は、応募団体の活動内容を理解した上で、「助成することにより、社会や地域の課題解決に役立っているか」を選考基準とし、審査を行いました。

このような予備審査に携わる機会を授かり、「ろうきんらしさ」を再認識するきっかけとなったことに感謝いたします。引き続き、助成対象となった団体の今後の活動に注目していきたいと思っております。



## 山梨県

### 特定非営利活動法人 山梨県ボランティア協会

地域における課題にNPOならではの視点で取り組む様子を感じることができました。活動するためには、資金確保はどの団体も共通の課題だと感じています。ただ、資金確保を優先すると本来の活動を見失う恐れもあります。

難しいバランスだと思いますが、本来の目的を忘れずに、多くの市民から応援してもらえるような活動が継続してできることを期待しています。

### 中央ろうきん 山梨県本部

予備審査では、NPO団体から寄せられた応募書類を拝見し、地域の活性化・女性たちの働き方・子育て支援など、地域が抱える多くの課題や諸問題に対して、住みよいまちづくりを目指して活動を行なっていることに、感銘を深めました。

どの活動も地域の課題に対して、行政ではなく民間ならではの発想で、暮らしやすい環境づくりを推進し、地域活性化に繋がる活動であると感じました。

最後に、ご応募いただいた全ての団体の更なる発展をご祈念いたします。



# 本審査

## 選考委員 所感

各地域の予備審査を経て、選考委員会を開催いたしました。6つの選考基準（地域貢献性、参加性、独創性、実現性、成長性、発展性）に基づき選考にあたった、各選考委員の所感を掲載いたします。



### 特定非営利活動法人とちぎユースサポーターズネットワーク 代表理事 岩井 俊宗



皆様の熱意と希望あふれる応募書類を拝読し、すべての活動が今まさに地域社会で必要とされている取り組みであると強く実感しています。選考するには優先順位を決めなければならず、書面審査に加えて2日間にわたる選考委員会では、期待する成果や実行体制、前年度からの積み上げ、深い課題認識、団体の成長や変化、適切な予算計画、などを踏まえ多面的に審議致しました。団体がやりたい、ありたいという計画ではなく、必要としている人がいることから組み立てられた応募書類には、切実さとリアリティがありました。さらに活動の必要性から生み出された理想にむけて、どのように近づいていくのかをイメージ出来ることも大事なポイントであったと思います。

また前年度の報告書も読んだ中で、計画とのズレがあった場合は、何故起きてしまったのか、どう今後に活かしていくのかなど、活動のプロセスを丁寧に分析し、それを活かして応募をしている団体もあり、感心いたしました。

必要性に応える成果は重要ですが、活動しているからこそわかった発見を丁寧に紡ぎ、日々の活動に活かしていくことも成果につながっていくと捉えています。皆様の取り組み一つ一つが地域社会の希望となりますので、今後も広く発信していただくことを強く期待しています。

### 法政大学 現代福祉学部 福祉コミュニティ学科 教授 佐藤 繭美



中央ろうきん助成プログラムの選考に関わらせていただき、2年目を迎えました。今年も皆様の思いの詰まった応募書類やプレゼンテーションを拝見しながら、社会課題に真摯に応え、悩みながらも活動を継続させることで、周りが変わっていく様子が見える活動ばかりで、選考するということが本当に大変でした。皆様の活動一つ一つが、「ひと・まち・くらし」をつくり、社会を変革していくような大きな“仕事”であるにもかかわらず、その苦勞をものともせずに進進する力に1人の選考委員として、ただただ敬服するばかりです。

今回、審査をしていてポイントとなった点は次のとおりです。地域や社会資源をいかに巻き込んでいるかということと、団体の活動メンバーそれぞれが多様な力を発揮し組織としての整合性が図られているか、です。シンプルなようですが、活動を社会の一助として根付かせるためには、この工程を丁寧に積み上げていくことが必要であるといえるでしょう。

どの団体の活動も社会には欠かすことのできない重要なものばかりです。“小さなつぼみが大きな花を咲かせる”ことができるよう心から願っています。

### 認定特定非営利活動法人日本NPOセンター 事務局次長 上田 英司



生活者の視点や立場にたった各団体の熱意ある取り組みに、選考委員として関わる機会をいただき、感謝します。

選考委員会で私が注視したことは、2つの方向性でした。ひとつは、「未来」です。未来については、募集要項の選考基準に則り、実現性・成長性・発展性などを議論しました。変化する社会をどのように捉え、各団体の持ち味をどう発揮したいのかというビジョンは、協力者や寄付者を募っていくためにも必要なことです。助成金の活動だけに留めず、常に社会発信をしてください。

もうひとつは、「過去」です。継続助成という特徴から、これまでの応募では、どのような課題や計画が設定され、実際の活動はどう展開されてきたかをみていきました。助成金は未来志向が強くなりがちですが、活動の成果は日々の地道な実践の積み重ねに他なりません。工夫したことや上手くいかなかったことも含めて、多様な視点から結果を伝えていただきたいと思います。

本プログラムを通じて、市民の創造的な取り組みが各地域に広がっていくことを期待します。

### 中央労働金庫 総合企画部(CSR) 上席調査役(主幹) 岩村 真奈美



継続助成のみの選考となった今回、昨年のパートナーミーティング(贈呈式)やフォローアップミーティング(中間報告会)での団体の様子を思い浮かべながら応募書類を読みました。

選考委員会では、これまでの助成金が団体の活動をどのように支え、地域や関わる人たちに変化をもたらし、さらに団体が目指す未来について、1団体ごとに時間をかけて、丁寧に意見交換を行いました。さらに応募書類には書かれていないけれども、団体が抱えているであろう課題や悩みにまで思いをめぐらし、この助成金が本当に活かせるかどうか徹底的に話し合い、選考委員会を終了した時には、安堵感と心地よい疲労感に包まれたようでした。

助成金は応募しても採択されなければ使うことのできない不安定なものです。今回採択された団体には、目の前にある課題だけを見るのではなく、助成期間終了後はどのように事業を継続していくのか、活動資金をどう確保するのか、少し先の未来についても団体内で考えを共有しながら活動していただきたいと思います。また、残念ながら採択にいたらなかった団体には、“不採択”ではなく“卒業”という言葉とエールをお送りします。

私自身、選考を通じて、中央ろうきんの助成金が地域に活かされていることを再認識し、また、選考委員の皆様と熱く本気で選考をともに行うことができました。貴重な経験をさせていただきありがとうございました。

## ろうきんの理念

ろうきんは、働く人の夢と共感を創造する協同組織の福祉金融機関です。

ろうきんは、会員が行う経済・福祉・環境および文化にかかわる活動を促進し、人々が喜びをもって共生できる社会の実現に寄与することを目的とします。

ろうきんは、働く人の団体、広く市民の参加による団体を会員とし、そのネットワークによって成り立っています。

会員は、平等の立場でろうきんの運営に参画し、運動と事業の発展に努めます。

ろうきんは、誠実・公正および公開を旨とし、健全経営に徹して会員の信頼に応えます。

## ろうきんの基本姿勢

### 目的 ろうきんは、働く仲間がつくった福祉金融機関です

ろうきんは、労働組合や生活協同組合などの働く仲間が、お互いを助け合うために資金を出し合っつった協同組織の金融機関です。

ろうきんは働く人たちの暮らしを支え、快適で過ごしやすい社会づくりに寄与することを目的にしています。

### 運営 ろうきんは、非営利・公平・民主的な運営の金融機関です

ろうきんは、労働金庫法に基づいて、営利を目的とせず、公平・民主的に運営されています。

ろうきん独自の運営に共感する人たちの輪が、働く人の団体・市民の参加を得て、全国で1,000万人の人たちに広がっています。

### 運用 ろうきんは、生活者本位の金融機関です

ろうきんの業務内容は、預金・融資・各種サービスなど、一般の金融機関とほとんど変わりません。しかし、ろうきんでは資金の運用が生活者本位に行われているのが特長です。

働く人たちからお預りした資金は、住宅・マイカー・教育資金など、働く人たちの生活を守り、より豊かにするために役立てられています。

## 〈中央ろうきん〉の概要

(2017年9月末現在)

名称	中央労働金庫	常勤役員数	2,938人
代表者	理事長 松迫 卓男	総預金残高	6兆199億円
本店所在地	東京都千代田区神田駿河台2-5	貸出金残高	3兆8,879億円
電話番号	03-3293-1611(代)	設立	1952年4月25日(2001年4月1日合併)
ホームページ	<a href="http://chuo.rokin.com">http://chuo.rokin.com</a>	事業エリア	茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉・東京・神奈川・山梨
店舗数	148店舗※		

※ 中央ろうきんの店舗数には、バーチャル店舗(インターネット中央支店、中央ふれあい第一支店)を含みます。